

記入例 教育支援計画調査票 ①

記入した日、内容を更新した日を記入

(記入日 平成 ○年 ○月 ○日)

香川県立高松養護学校

ふりがな	たかまつ たろう	性別	男	生年月日	平成 △年 △月 △日
氏 名	高松 太郎				
ふりがな	たかまつ じろう	現住所	(〒 ○○○ -△△△△) 香川県高松市○○町○○番地 TEL ○○○ (△△△) □□□□		
保護者氏 名	高松 次郎				
病 名 等	例 脳性まひ ダウン症 ○○症候群など				
手 帳	身 障 ○ 種 ○ 級	療 育 △			
合併症 (例えば心臓疾患、ぜんそく等、あれば記入)					発作の有無
					有
通学方法 (交通手段と距離) だいたいにかまいません 例 母が自家用車で送迎 約5 km 路線バス 自家用車とスクールバス (朝のみ)				その他 例 センター入所 寄宿舎入舎 (週2回)	
家 族 構 成	続 柄	氏 名	備 考		
	父	高松 ○○			
	母	高松 △△			
	兄	高松 **			
	妹	高松 ??			
	祖母	香川 ××			

チェック欄 (担任名記入)

小 1	小 4	中 1	高 1
△△ △△	○○ ○○		

小1、小4、中1、高1時の担任が年度初めに確認後、氏名を記入する

記入例

教育支援計画調査票②（支援関係機関一覧）

記入した日、内容を更新した日を記入

（記入日 平成 ○年 ○月 ○日）

3年に一度、書き換える

中学部 1 年 氏名（ 高松 ○○ ）

	中学部 1 年	変 更
医 療	主治医 病院名 中央病院 小児科 ○○先生	※3年の間に変更や追加がある場合は、その都度（年度途中で）も担当が「変更欄」に記入する。履歴が分かるように変更部分は消さずに、日付をつけて書き加えていく。
	他のかかりつけ医・病院名 リハセンター・・・整形外科 ○○先生 小児科 △△先生 香川小児病院・・・小児科 □□先生 ○○病院・・・眼科××先生	
	PT、OTなど 担当者名 回数 PT リハセンター○○先生 月2回 OT リハセンター△△先生 週1回 ST ○○病院 ××先生 月1回	
	医療的ケア 鼻腔からの経管栄養で留置 導尿	
	装具・補助具（相談先、事業所名、担当者名） 車いす ○○工房 担当◇◇（H26.4） 座位保持いす △△店（H26.7） ヘッドギア △△店（H27.8）	
福 祉	相談先（事業所名、担当者） 高松市障害者生活支援センター 担当○○相談員	障害者生活支援センター ◇◇ 担当△△相談員（H31.1）
	サービスの種類・事業所名 短期入所 ○○事業所（H27.4～） 放課後等デイサービス □○事業所（H27～） 身体介護、移動支援 ○○事業所	短期入所 ××事業所に変更（H30.8） 放課後等デイサービス ◎◎事業所利用開始（H31.2）
労 働	○○作業所体験（夏休み） △△作業所見学	××施設見学（H30.12）
そ の 他	交流学习、親の会、地域の活動グループ、訓練会、 学習塾など（名称・内容・回数） ○○月例会 動作訓練による学習 月1回 ××会 音楽療法 月2回	○○親の会 月例会プール班参加（H30.5） VOCA（ステップ バイ ステップ）購入（H31.2）

チェック欄（担任名記入）

中 1	中 2	中 3
○○ △△		

毎年、担任が内容を確認後、氏名を記入する。

調査票②は、3年ごとに新しいシートを作成します。

記入例

個別の教育支援計画 I

〇〇部 〇 年 高松太郎

香 川 県 立 高 松 養 護 学 校
作成者氏名 ㊞ 平成 年 月 日

（困っていることなど） 現在の課題	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。	・現在の生活の充実や、将来のより豊かな実現に向けての課題について聞き取り記入する。 ・本人が気持ちを伝えられない場合は、推察して可能な限り記入する。
	保護者	・話をしていても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。P Tには筋力が低下していると言われた。	
（つけたかった願いなど）	本人	・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。	・より豊かな生活の実現に向けて取り組んでもらいたいこと、支援してほしいことについて本人・保護者の希望を記入する。 ・本人が気持ちを伝えられない場合は、推察して可能な限り記入する。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。	
児童生徒のニーズ (より豊かな生活の実現のために必要なこと) A 筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。 B タブレット型情報端末など、扱いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。 C 自分の意思をはっきりと言葉で伝えられるようになる。			
上欄を踏まえて、本人や保護者、担任団等で「より豊かな生活」について協議する。 ・その実現に向けて必要なこと(教育的ニーズ)、取り組むべきことを協議し、優先度の高いものを順にアルファベット記号(A、B、C...)に続けて記入する。 ・～できるようになる。～する。など、児童生徒の立場で記入する。			
連携する関係機関等		連携の記録・履歴	
・ □□病院 P T (A) ・ ○〇事業所 (BC) ・ 寄宿舍 (ABC) ・ 自立活動室 (AC)		・ 寄宿舍連絡会 (H28. 4. 20) ・ 自立活動室との情報交換会 (H28. 5. 1) ・ □□病院 P T 見学・支援内容に関する相談 (H28. 7) ・ サービス担当者会議 (H28. 7. 10)	
・「児童生徒のニーズ」を実現・充足させるために、必要と思われる教育、福祉、医療、労働 等の関係機関等を記入する。		・実施された会議等や関係者・機関との連携について履歴を記入する。 校内で実施されたケース会等についても記載する。 ・この欄には会議名と実施日だけを記入する。。	

この支援計画を了承します。 平成 年 月 日 氏名

・内容を話し合った後、保護者に記入・押印してもらう。

記入例

個別の教育支援計画Ⅱ

〇〇部 〇年

学校関係者が主語になる表現で記入する。

ここで記入するのは継続して取り組む「支援の内容」。会議等や見学の履歴ではないので、表現に気を付ける。

香川県
作成者氏名

関係機関の担当者が主語になる表現で記入する。

校
年 月 日

支援目標	支援の内容			機関名担当者名（年月日）
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	
A 全身の筋力をつけ、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。 B メモやノートを楽しめるようにする。 C いろいろな人に自分の意思を伝えられるようになる。	A 給食場までの移動の際にＰＣウォーカーで移動する距離を増やしていく。 A 寄宿舍でも1日に1回ＰＣウォーカーで廊下を1往復する機会を設ける。 B 授業のなかで、タブレット型情報端末のデジタルノート用アプリケーションを組み合わせてながら、効率の良い方法を検討する。 B 教科担任間でのケース会を実施し、ノートテイクについての共通理解を図る。 C 早口になっていたら、ゆっくりしたペースにするよう言葉かけをする。 C 10月より携帯型情報端末のコミュニケーション支援用アプリケーションを使って、意思を相手に伝える学習を開始する。	高松 香川 田村(舎) 香川 高山 教科担任 高松 香川 谷口(自)	A 体の変化に伴って、歩行する際の助言を保護者や担任に行う。 B 放課後等デイサービスで宿題に取り組む時にも、タブレット型情報端末を使用できるように環境を整える。 C 意思が伝わるまで、根気よく聞くよう職員間で共通理解を図る。	〇〇病院：〇〇P T (H28. 7) 〇〇事業所：〇〇さん (H28. 5. 30) 〇〇サポート：〇〇ヘルパー (H28. 7. 10)
・教育支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズ」に対応した支援目標を協議して記入する。 ・「児童生徒のニーズ」の記号と対応させて記入する。 ・児童生徒の立場で表記する(～できる。～する。)	★「支援目標」に対応した学校、家庭での支援内容を保護者と協議し、具体的に記入する。 ★「支援目標」に対応した記号に続けて記入する。 ★追記できるように下に余白を作っておく。	★「支援目標」に対応した関係者・機関での支援内容を記入する。 ★「支援目標」に対応した記号に続けて記入する。	★関係機関名、担当者名と支援内容について確認をした年月日を記入する。	
学校・家庭、支援機関など横のつながりを大切に！				
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項 A 毎日ＰＣウォーカーを使って移動することで、徐々に移動距離が伸び、11月頃からは給食場までの往復をウォーカーでできるようになった。寄宿舍では、移動に自信が付いてきた後期より、自らウォーカー移動に取り組もうとするなど、意欲的な様子が見られた。また脚や体幹、腕などの筋力も付き、姿勢変換や四つばいでの移動がスムーズになったり、側わんが軽減したりしてきている。 B 取り組み当初は、タブレット型情報端末の扱いに時間を有した。全ての教科でデジタルノート用アプリケーションでのノートテイクを始めた頃から、機器を扱う機会が増えたことで、扱いになれ、スムーズに入力できるようになった。授業後にデジタルノートを見返す機会が増え、復習に活用できるようになっている。 C 外出に移動支援を利用する際に、ヘルパーや店員の方にスマートフォンを使って意思を伝え、買い物を楽しむことができるようになってきている。				
・「支援の評価・今後の課題」は、「支援目標」の記号にそって年度末に記入する。				

この支援計画を了承します。

平成 年 月 日 氏名

内容を話し合った後、保護者に記入・押印してもらう。